兵庫生物 13 (2) ：23－30, 2006

高取山池沼記

大賀　二郎※

Nature of the ancient times of Mt. Takatori

Jiro OGA

はじめに

都市化によって近郊の生態系はどのように変わりつつあるのだろうか，また近年の地球温暖化によって影響が出ているのだろうか，身近な自然環境にある高取山とその山麓の池沼を取り上げ，局地的であるが，その推移について考えてみた。高取山は西神戸の都市部にあり，言わば市街地のなかの孤島である。山はほぼ５合目（北側は８合目）付近まで開発が進んできが，現在は止まった状況にある。開発地域も林間住宅が多く，山林が従来のまま残っているところが多い(写真１)。

高取山の山麓は，山間部に降った雨が伏流水となって山麓特に南部に多くの池沼をつくり，殆どはため池として灌漑に利用されてきた。しかし現在は都市化と市街地開発によって北部の数箇所を除いて消滅した。

私は小学校在学当時から阪神大震災当時（1935-1995）まで，高取山東山麓に位置する長田区片山町と大塚町に居住していた。青少年期であったので，付近の山野で虫取り，魚釣りで遊び廻っていた。本稿の記述もその記憶による部分が多い。昔の高取山の自然を物語る文献や写真は極めて少ない。戦時体制下にあったことや写真，地図などの技術が今ほど発達していなかったからである。そのようなことで，本稿は私の往時の回想記録程度のものになった。失われていく過去の記録を幾分でも文面に留めておきたかったので．そのようにご理解いただきたい。なお，私は1984-1987年神戸市須磨区役所在職中に高取山を含む地域の自然・文化の調査をしたことがあり，資料（須磨の自然・歴史および文化）を参考にしている。

高取山の山野と池沼の推移

高取山は，六甲山塊から西に，摩耶山，再度山，菊水山と連なり，ここから独立した山で，更に西には鉄拐山，鉢伏山が立ち上がっている。高取山は歴史上著名で，天保７年(1836）の摂津国細見大絵図（資料１）によると鷹取山としての記載がある。鳥瞰図のような形で描かれていて，当時は相当峻険な山容だったようだ。西には後山，丸山，天神山（長田天神町付近），増田山（大塚町，片山町付近），会下山，湊山（菊水山），諏訪山，生田山（現在の再度山），摩耶山，弓弦羽嶽，御影山なども岩壁の山として存在していた。今は高取山周辺の山は，ニュータウンや公園として消滅したものもある。

高取山は，昔は鷹を取ったので鷹取山の名があり，また，一時期神撫山と呼ばれていたこともあった。「兵庫津（文久２年改)」（資料2）によると当時の険しい山容と山麓に広がる田畑更に港との状況が絵画的に描かれている。

高取山の海抜は328m，.山頂は高取神社として神域になっている。山中には，稲荷神社を初め民間信教の社が散在している。急峻で，滝もあり，人里にも近いので，伝説や民話も多い。昔，海から高潮が押し寄せてきて打ち上げられた蛸たちが松の枝に引っ掛っていたという。子供たちの間では蛸取山と言っていた。また霧の山中の池畔を女が通ると，水中から蛸入道の吸盤の手が伸びてきて引き込むという。

高取山の動植物相も豊かであった。北斜面と山麓は随分開発されたが，山頂から参道筋に沿っての山林はそのまま残っている（写真３)。クロマツ，シイ，カナメモチなどの群集が多かったが，今はクロマツの多くが枯死した。山頂付近の谷間には、シダなどの群落がある（写真４)。この山は，長田区と須磨区の広域にまたがる山で，山間部に降った雨は河川の源流となり，伏流水となって，山麓に湧出した。そして南麓に展開する水田の用水として古来数多くのため池が造られてきた。

歴史的にも有名な池としては次のものがあった。

夫婦池　今の長田交差点西のあたりに二つ。北が（28,700m²）で今の村野工業高校の敷地。

南が大池（22,000m²）で，長田区役所付近にあった。

名倉池（そらひげ池）（17,700m²）名倉小学校北あたりで，老松が枝をかかげていた。

蓮池　歴史上有名で，行基菩薩が灌漑用に造った（17,400m²)。市民運動場付近に近年まで実在した（写真２)。

真野池　現在の真野小学校付近にあって，重要な灌漑用水であった。

ぶた池　通称である。高取山表参道入口山麓線南にあって，蓮などが茂り，魚類が極めて豊富であった。当

※　森羅万象の館　博物館学芸員

時の池畔の岩盤の一部が残っている（写真８）。

獅子ヶ池　高取山麓北方にあり，風光明媚で現存する（写真5,6,7）。

その他，1925年と1940年頃の地図（資料3,）で調べると，山麓で新湊川と妙法川の間に介在していた池沼は20あまりが記録に残っている。これ以外に高取山中に500㎡あまりの小池が散在していた。昔の小池の様子を（写真11）に掲げた。児童たちがスケッチをしている。

私は前述のように幼小の頃から，高取山麓で過ごした。

高取山はわが遊びの庭のようであった（1935-1945年頃）。また昔は毎朝登山も盛んで市民に親しまれていた。街に隣接する自然であったので，夕方になるとトンボの編隊が高取山に向かった。逆にコウモリの群が山から街に向かった。山麓の原野の小川には，オタマジャクシやメダカなどが泳いでいた。草むらには，キリギリスやコオロギが鳴く。クヌギ林にはクワガタムシやカブトムシがいたので，暗い内から採集に出かけた。池でのフナ釣は近所の人たちの日課であった。なかでもブタ池は長田区上池田２丁目の山麓線の南斜面のあたりにあったが，今は，埋め立てられて，一時期は鉄筋の共同住宅群が立ち並んでいたが，最近それも取り壊され，一般の瀟洒な高級住宅が建ちかけている。すでにセンターに公園もできている（写真９）。子供の頃の記憶であるが，ここにその池があり，いま危機的な状態にある種が豊富に生息していた。池全体に水草が茂っていて，たくさんの水生動物がいた。魚類ではゲンゴロウブナ，コイ，モロコ，ドンコ，ドジョウ，メダカなど。両生類ではトノサマガエル，ツチガエル，イモリなど。水生昆虫では，タガメ，ゲンゴロウ，ミズスマシ，マツモムシ，タイコウチ，ミズカミキリ，コオイムシなど。水面にはトンボ類が飛んでいた。水生植物では，ハス，キンギョモ，エビモ，フサモなど多様な種類が見られた。高取山の伏流水がここで湧水として出ていたので，水質に敏感なエビも生存していた（大賀　2004）。高取山麓の他の多くの池の生態がどんなものであったか，伺い知ることはできないが，おおむねこのような種類がいたのではないかと想像できる。

今，残っている池はただひとつ獅子ヶ池である。ここだけは周囲を花崗岩の山に囲まれて，透明な水をたたえている。昔から魚の種類も量も少なく，フナ，コイ，モロコ，メダカ，ドジョウそしてエビがひっそりと生息している。今も池の形状や透明度は変わらないが，近所の中学生たちの話では，最近，ブラックバスとブルーギルがいたとの情報もある。かっては池で水泳をしたり，キャンプをしたり，ずいぶんと賑わった時期もあった。今は訪れる人もなく，周囲は岸辺に出られない程，草木が茂っている。獅子ケ池の湿地帯には昔のままにミソハギの赤い花の群落が残っていた（写真７）。現存する唯一の池で，静寂そのものである。

2005年夏，この報告を書くために，高取山に数回訪れた。北側山麓から頂上を経て，南参道登山口まで縦断した。開発が大きく進んでいた。北側斜面のほとんどは頂上近くまで，寺院と霊園，工場用地，住宅などになっていた。南側は５合目近くまで住宅地になっていた（資料５）。がけ崩れで，地肌が大きく露出している箇所もあった。（写真10）。しかし，ここ数年は開発は止まっている。頂上近くに高取神社があり，参道が続いている。昔のままに茶店もある。毎朝登山も行われているが，長蛇の列が続いたのは，昔の語り草となった。参道の両側のアカマツは姿を消したが，広葉樹がうっそうと茂っている。ツタなども絡まっている。梢の白い花のあたりには，アゲハチョウ，アオスジアゲハ，クロアゲハなどが，水場にはタテハチョウの姿も見られた。山全体は蝉しぐれであった。頂上付近のアブラゼミの領域にクマゼミが入り込んでいた。チョウといい，セミといい，最近個体数が多く感じられるのは温暖化の影響であろうか。

高取山は広域に開発が進んできたが，いまそれはストップした。登山者や入山者も少なくなり，山は急に静かになった。山の緑は急速に濃くなってきた。一時期姿を消していた鳥類，昆虫類も驚くほど早く帰ってきた。自然は失われるのも速いが，回復するのも意外と速い。都市の中の孤島のような高取山は，今は大きな開発は行われていない。その余地はないと考えられる。ここしばらく空洞状態になっているところへ，在来種が静かに戻ってきたように思える。しかし，このままかってのような動植物が回復するか，違った種が入ってくるか，地球温暖化や開発の影響も出ると思われる。

両生類など水辺に縁のある生物は，池沼がなくなり，河川改修が行われたので今も見られなくなったままである。

おわりに

1　局地的であるが、高取山の自然と池沼の移り変わりを辿ってみた。かって山麓に展開していた20数箇所の池沼は消滅した。多様な水辺の生物を育み，文化が生まれた土壌の面影はない。歴史や伝説で当時の風物を垣間見ることはできる。しかし往時どこにどんな生物が分布していたか，個人の記憶や断片的な文献と地図で当時を想像するしかない。

2　昔の地図には池沼の名前のないものが多い。狭い村落内にあってはその必要がなかったと思われる。あっても大池、長池，すりばち池，宮池，蓮池など抽象的な名で呼ばれていた。

3　ため池は全国で21万カ所，兵庫県には４万ケ所な

かでも東播地域が圧倒的に多いと言われる。近年水辺の景観，生物を育む環境の保存更には池の材料を用いた食文化などが見直されるようになった。

4　水辺の生態系や景観の保存など池沼に係る注目点は多い。そのような視点から，都市近郊に湿原に囲まれた野趣豊かな池沼公園を造ってほしい。

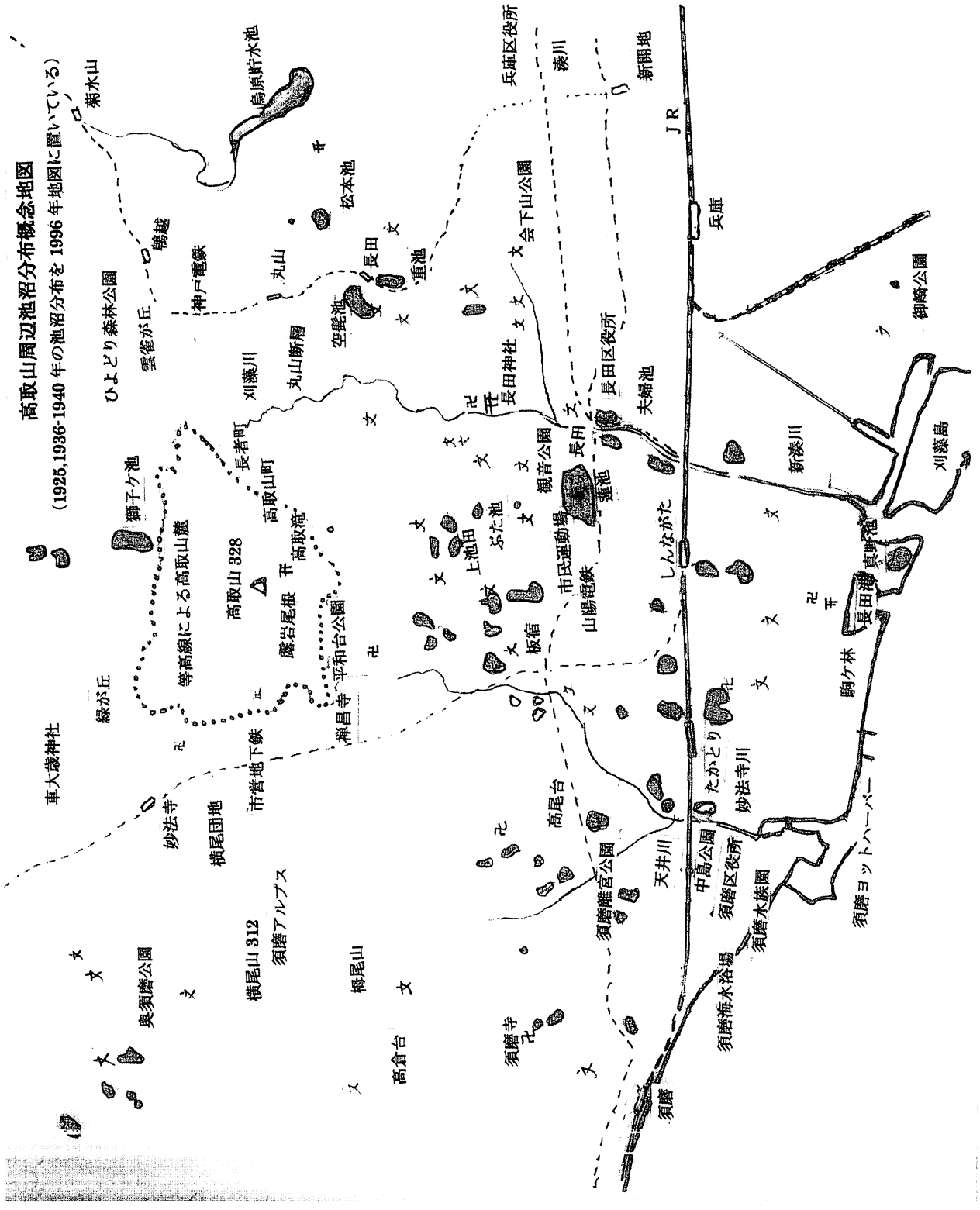
5　海岸線に近い池沼は，地図の上ではかなり以前から年数の経過により消滅してきている。過去に高潮が寄せてきて消滅したとも考えられる。高取山には前述のように蛸取山の伝説もある。過去にどのような規模の高潮がどの地域まで寄せてきたか。各年代の池沼の分布を時系列でみると，何かわかるかもしれない。予想される大規模模地震とそれに伴う高潮対策に備え，参考になることがみちびき出されるかもしれない。

引用文献

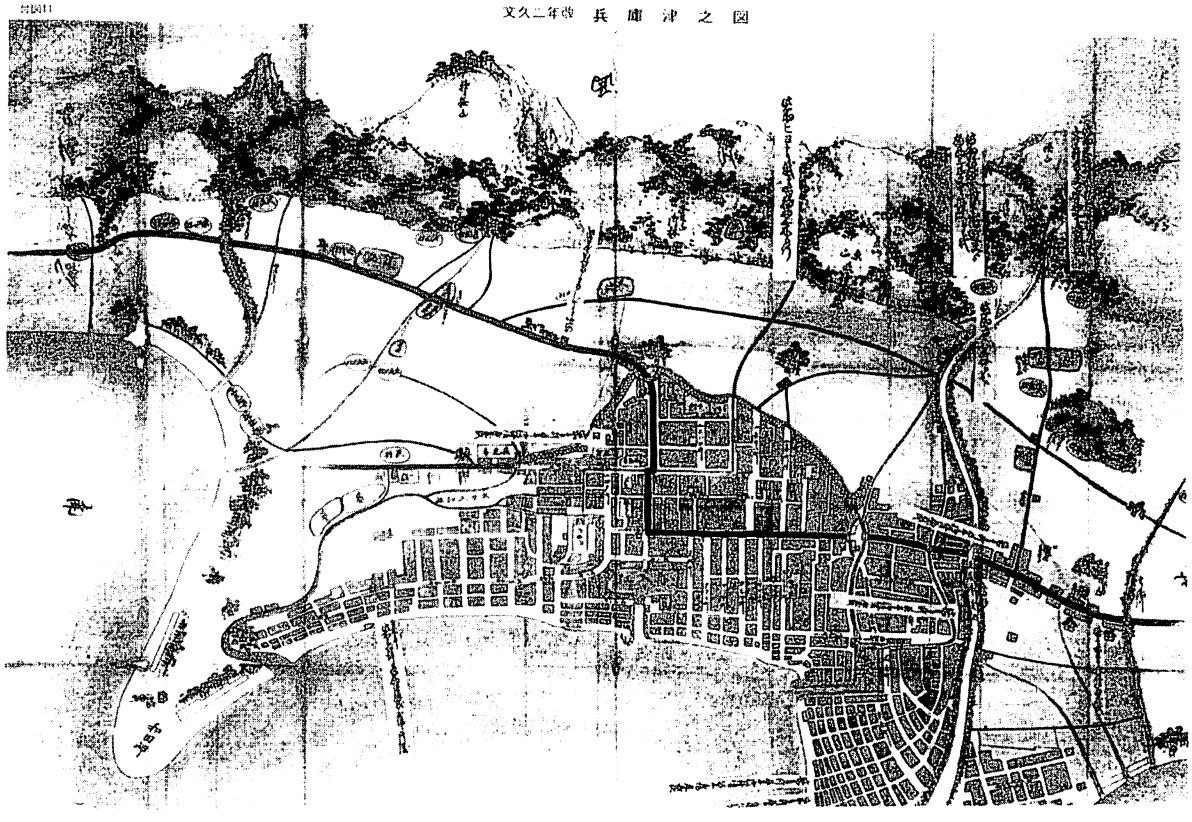
大賀二郎．1987．須磨の自然、歴史および文化.5．兵庫県生物学会.

大賀二郎.2004．幻の生物ものがたり，4．神戸芸術文化会議.

資料１　高取山周辺池沼分布概念地図



資料２　摂津国細見大絵図部分（1836）



資料３　兵庫津之図（文久２年 1862）

資料４　高取山麓池沼分布図1925（大阪毎日新聞）

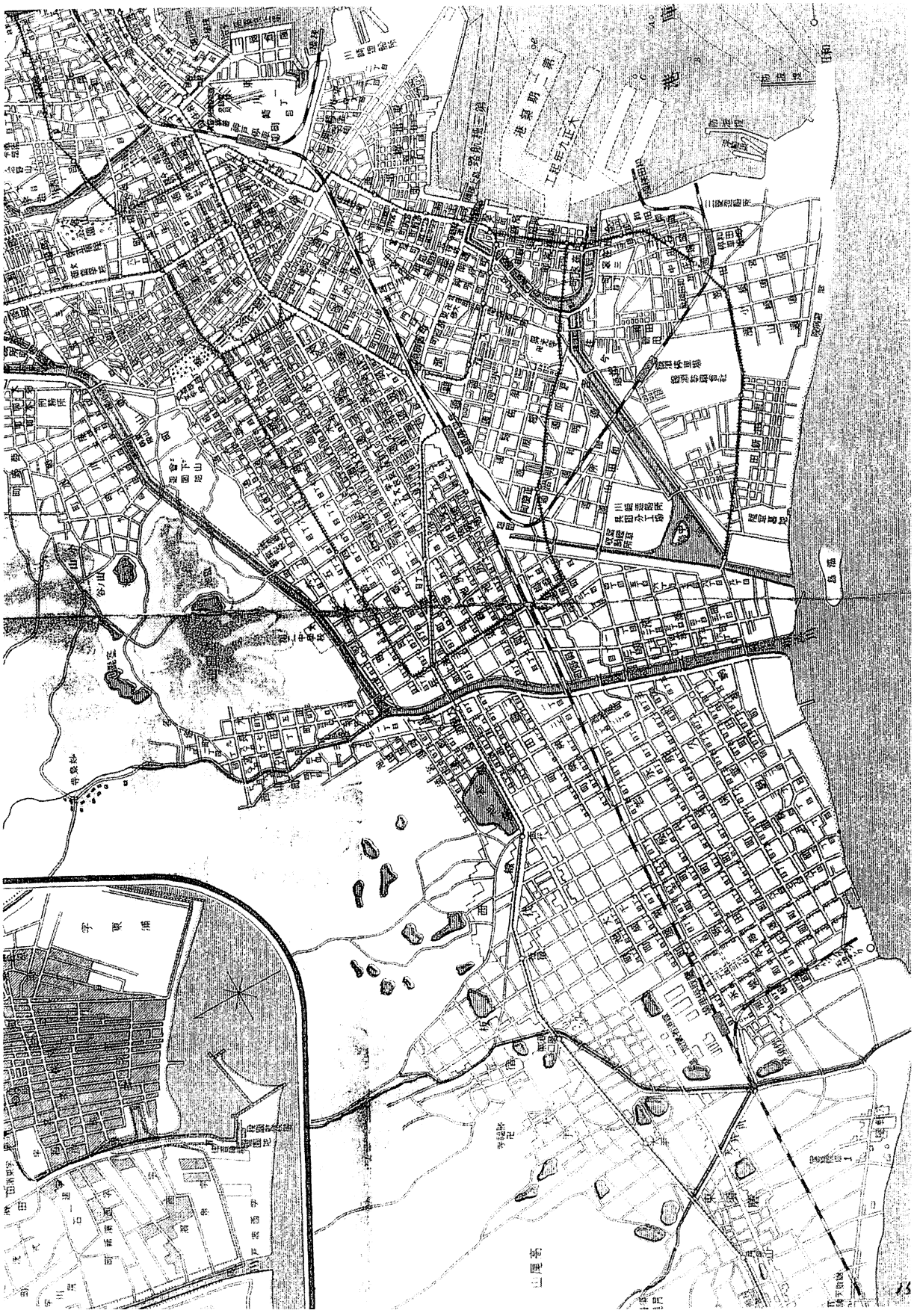


写真１　高取山の景観(2005長田区役所付近から望む)

写真４　高取山岩上植物（山頂高取神社裏手）

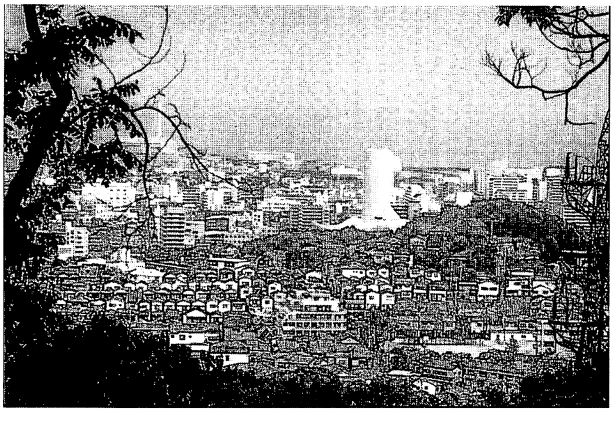


写真２　高取山から市街地を望む（旧蓮池は白い塔の下）

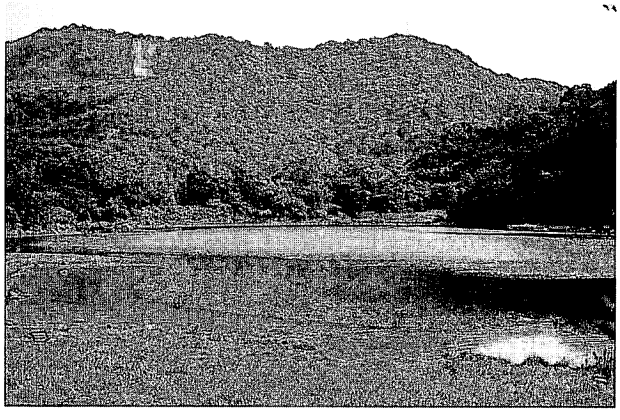


写真５　獅子ヶ池（その１）（前方の山は高取山）

写真３　高取山林中の様相

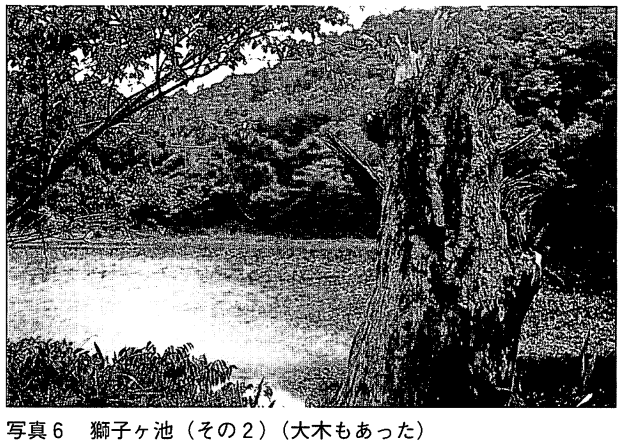


写真６　獅子ヶ池（その２）（大木もあった）

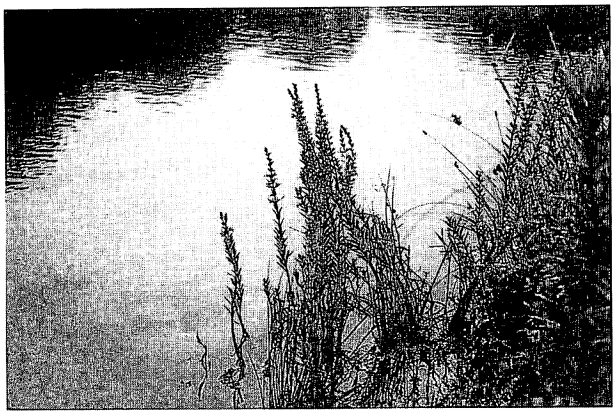


写真７　獅子ヶ池沼沢に残存していたミソハギ

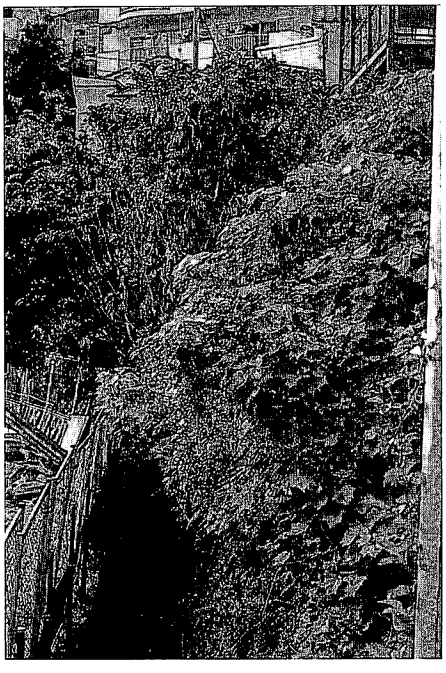


写真８　山麓のブタ池の面影を留める岩盤

写真９　山麓のブタ池を埋めてできた住宅地内小公園

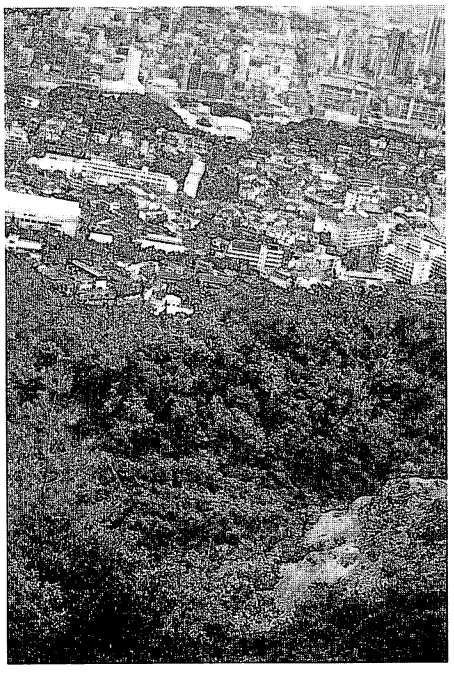


写真10　高取山中の一部崩壊地

写真11　1940年に撮影された高取山中の池